

【学級活動・小3・「学級の諸問題を解決しよう」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) よりよい学級生活を送るために、学級の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- (思・判・表) よりよい学級生活を送るために、学級の課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- (学びに向かう力・人間性等) 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

- ・学級の課題を見いだすための事前アンケートの実施・アンケート結果の共有
- ・児童一人一人が考えをもって話し合い、合意形成を図るためのホワイトボードアプリの活用

【つかむ】

学級の課題から議題を見いだす。
話し合いの進め方を理解する。

【出し合う】【比べ合う】

課題に対する解決策を出し合う。
出された意見を比べ、分類する。

【まとめる(決める)】

折り合いをつけて合意形成し、学級としての解決策を決める。

事例の概要

- 事前にアンケートフォームで回答した、「クラスの困ったこと」「皆で解決したいこと」についてのアンケート結果を全体で共有し、学級の課題を見だし、確認する。

議題: よりよい学級生活を送るために、
クラスの問題点を見つけ、解決策を決めよう

【事例におけるICT活用の中心場面】

- ①学級の課題に対する解決策のアイデアをホワイトボードアプリの付箋紙の機能を用いて書き出す。(手書き入力や音声入力の機能を活用する)
 - ②ホワイトボードアプリを用いて、班ごとにそれぞれの意見を共有し、内容を比較検討して解決策进行分类する。
- 班ごとに話し合っ決めた解決策を電子黒板を使って全体で共有する。

- 本時の振り返りをアンケートフォームで記述・回答する。

【学級活動・小3・「学級の諸問題を解決しよう」】②

【事例におけるICT活用の主な場面①】



手書き入力をする児童

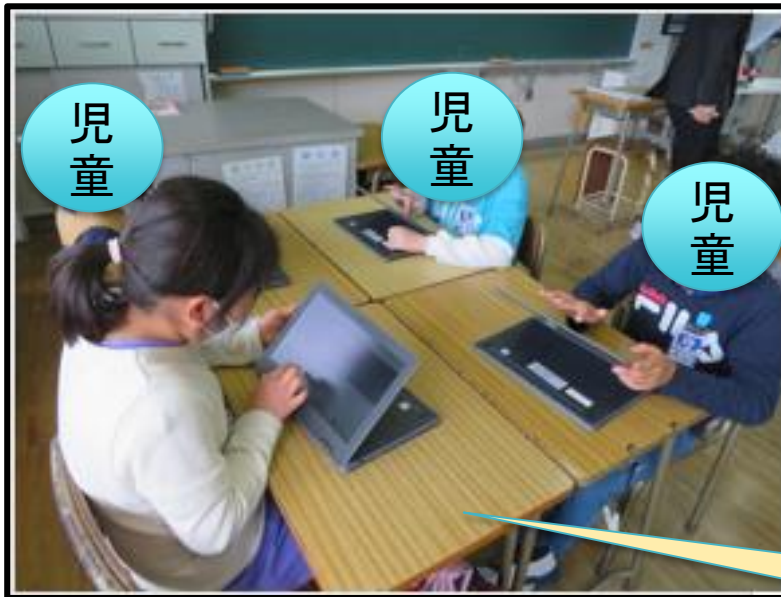


音声入力をする児童

○児童が自分の考えを出し合う場面で、ホワイトボードアプリの付箋紙への入力を行った。話すことが苦手な児童も、手書き入力や音声入力等の文字変換機能を自ら選択しながら入力し、自分の考えを表現できるようにした。

皆の前で発表して上手く言えない時もあるけれど、これなら緊張しないでできるね。

【事例におけるICT活用の主な場面②】



○各班においてホワイトボードアプリを使って、互いの意見を比べ合ったり、考えを分類したり、折り合いをつけたりする場面では、KJ法を用いてまとめさせた。児童はそれぞれの考えた解決策とその理由について説明した上で、「みんなが気持ちよく生活できるためのものであるか」「全員で取り組めるものであるか」という視点で話し合い、班としての考えをまとめることができた。

○児童ごとに色の違う付箋紙に記入をさせたことで、誰の意見なのかを班の中で把握することができ、話し合いの場面でスムーズに質問し合うことができた。

○考えを分類したり、折り合いをつけたりする場面では、各班で中心となる児童が話し合いを進行しながら付箋紙を移動するようにした。

この二つの意見は似ているからまとめたいけれど、何でそう思ったのかをもう少し詳しく教えてね。